

第3章 越前町の将来像

第1節 次代を担う子どもたちの思い

越前町合併10周年記念事業として、町内小学4・5年生を対象に図画・作文コンクールを実施しましたので、作品の一部をご紹介します（募集期間：平成26年6～10月、選考：同年12月）。

これらの作品には、次代の越前町を担う子どもたちが思い描く将来像が見事に映し出されています。これらの思いを胸に、より良い町を後世に残していくことが望まれます。

【最優秀賞】

越前町の発展を願って

宮崎小学校5年 河合 凜香

目を開けると、いつもの景色が目の前に広がってきます。

私が二才の時、宮崎村が合peiし、新しく越前町になりました。もう十年たったのかと思うと、とても早く感じました。

私が思い描く越前町の未来のテーマは、「緑あふれるすてきでおいしい町、越前町」です。テーマ通り、美しく豊かな緑を残し、おいしい物やみ力的な物で人がたくさん集まる人気な町になってほしいです。今の越前町は、緑がいっぱいですが、あまり人には知られていません。この美しい越前の緑と海をアピールしていくためには、どうすればいいかを考えるのが、今の越前町と私達の課題だと思います。

例えば、私が住んでいる宮崎地区は、タケノコが名産です。私も毎年、祖父母のタケノコ掘りを手伝っていますが、とても大変な作業だと思いました。だけど食べた時には、どこの地方のタケノコよりも一番おいしいと実感しました。それに、越前焼も有名ですが、五月にあるとう芸まつりでは、もっと多くの人に来てもらって、実際にとう芸を体験して越前焼のみ力をもっと身近に感じてもらえるといいと思います。

全国的に知名度がある越前ガニが、観光としても人気です。ですが、観光以外にも大切な事はたくさんあります。例えば、人がらや一人一人が安心してらせる町になっていくことです。人がらを良くするためには、一人一人の心がけがないと出来ません。それに、個人が安心してらせるまちになるのにも、自分たちの心がけが必要になります。なので私は自分たちでの心がけがとても大切だと思います。

二十年後には、私には子供がいるかも知れません。この緑豊かで活みなぎる町が、今の世代から、その次の世代、そのまた次の世代と、ずっと受けつがれるよう、越前町をもっともっともり上げていきたいなと思います。そして、もし子供がいたら、自分たちが住んでいる町がどれほどすばらしいか、などと次の世代にも自まんでできるようなすばらしい町づくりをしてほしいと心から思いました。

私がこの作文を書いていくにつれて、この町のすばらしさや、この町に対する町づくりの意よくがわいてきました。私はまだ子どもだから、町づくりに対する仕事はできないけれど、せめて応えただけでもしてあげたいし、しょう来の仕事は町づくりにかかわる仕事をしたいなと思いました。この作文で、もう一度、越前町のすごさに気がつけたんじゃないかなと思いました。それに、私はいつまでも越前町の発展を祈っています。

第3章 越前町の将来像

第1節 次代を担う子どもたちの思い

▼ **最優秀賞**：みんな仲よし
城崎小学校4年 森下 音和



▼ **優秀賞**：楽しさいっぱい越前町
糸生小学校4年 青山 航大



▼ **優秀賞**：海の中のドームのまち
朝日小学校4年 小林 和奏



▼ **優秀賞**：水せんがとぶ町
宮崎小学校4年 木原 珠里



▼ **優秀賞**：にじのまち
朝日小学校4年 藤井 智絵



▼ **優秀賞**：えち前海岸の水中にさく水せん
宮崎小学校4年 鷺田 未来



▼ **優秀賞**：人がいっぱいになってほしいな
常盤小学校4年 石黒 悠斗



▼ **優秀賞**：毎日お祭り
四ヶ浦小学校4年 上野 由芽



第2節 まちづくりの基本理念

第2章に示したまちづくりの基本認識を踏まえ、今後のまちづくりの推進に際し、基本理念を次のように設定します。

町民一人ひとりが幸せを実感し、 誇りをもって充実した人生を歩み続ける ことができる「ふるさと越前町」の創生

本町は、多様な地域資源（宝）を有する個性豊かなまちです。

今後、人口減少が進行しようとも、本町に関わるすべての人々が5つのコンセプトに基づいたまちづくりを実践し、地域の魅力をさらに高め、誇りをもってそれぞれに充実した人生を歩み続けることができる「ふるさと越前町」を目指します。

【基本理念：5つの普遍的なコンセプト】



第3章 越前町の将来像

第3節 将来像

越前町の将来像

—わたしたちは、将来の越前町を以下のようにイメージします—

人と技 ^{みどり}海土里 織りなす 快適なまち

～ 越前E-town brandのさらなる躍進 ～

風光明媚な自然環境や
長年の歴史に培われた伝統文化、地域産業を
自信と誇りを持った町民が守り育て、
越前ならではの
快適な住環境の創造と
文化の香り高いまちづくりを
推進します。



「人」：ひとづくり

…郷土愛にあふれ、もてなしの心を大切にする人々

「技」：産業づくり

…地域に根付いた優れた伝統技術と活力ある産業



^{みどり}「海土里」：自然と歴史の継承

“海”…………美しい景観と豊かな海洋資源

“土”…………由緒ある歴史と伝統を育んだ丹生の名の由来ともなる赤い土

“里”…………田園と里山が調和した人が集うふるさと

“みどり”…緑に包まれた豊かな自然環境

第4節 基本目標

将来像の実現に向けて、6つの分野別の基本目標を掲げ、施策の展開を図ります。

快適で安全に住み続けられる まちづくり

— *Eternal* —

道路や公共交通などの利便性が高い居住環境や暮らしの安全が確保され、未永く住み続けられる町を目指します。

誰もが健康で暮らしやすさを 実感できるまちづくり

— *Everyone* —

保健・医療・福祉サービスを充実し、誰もが健康に暮らせる町を目指します。また、安心して結婚・移住・定住できる環境をつくり、人口や地域活力の維持を目指します。

人が輝き豊かな心が 満ちあふれるまちづくり

— *Empowerment* —

子どもたちが将来に希望を持てるよう、豊かな人間性を育む学習を推進することにより、町民が主体となって地域をよりよくするための活動や交流が盛んな町を目指します。

人と仕事の活力みなぎる まちづくり

— *Energy* —

豊かな自然の恵みに囲まれた農林水産業や伝統工芸、最先端の技術が生み出す魅力ある仕事が若者に希望を与え、町民の活力みなぎる町を目指します。

ふるさとの個性を活かし 交流を育むまちづくり

— *Excellence* —

風光明媚な自然環境や歴史・伝統文化、特産物を有機的に活かし、“ふるさと越前町”に自信と誇りの持てる町を目指します。

持続可能な健全行財政の まちづくり

— *Economy* —

職員一人ひとりが職務意識を持ち、町民の期待に応える質の高い行政サービスと中長期的な展望に立った計画的な財政運営を行いながら、効率的・効果的で持続可能な健全行財政の町を目指します。

E-town brand を構成する6つの「E」



第3章 越前町の将来像

第5節 将来目標値

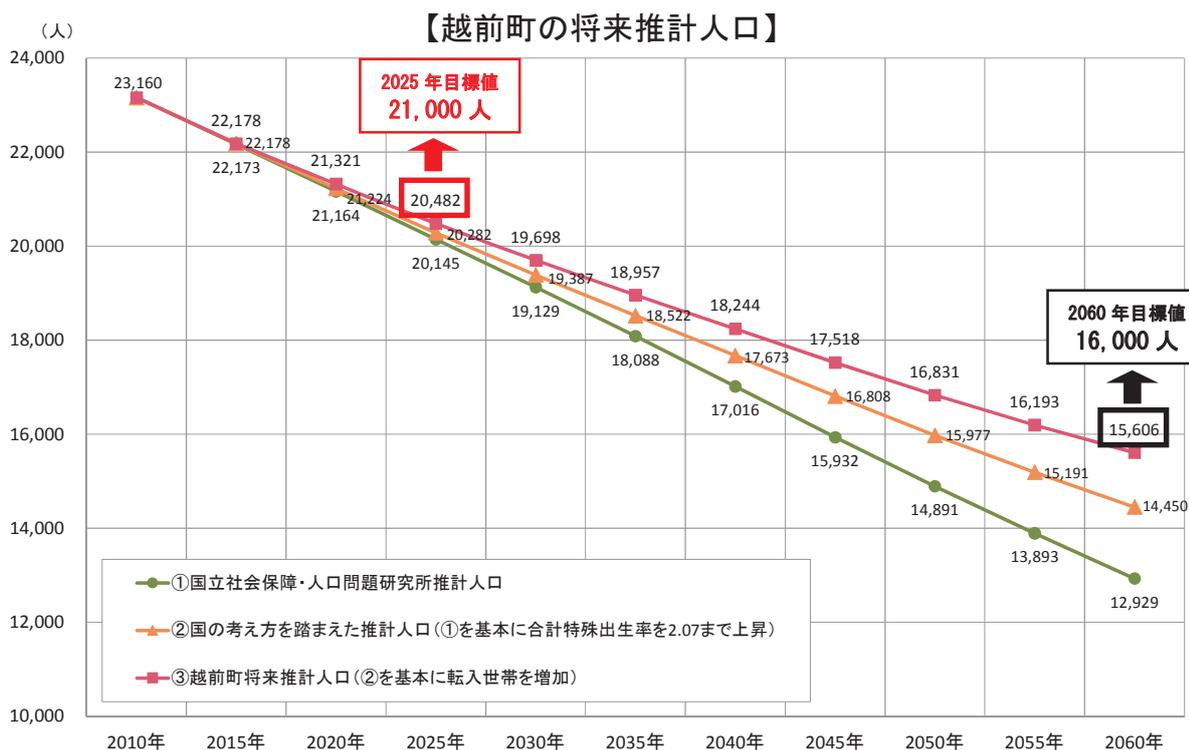
1. 将来目標人口

人口減少対策により21,000人を目指す

「越前町人口ビジョン」を踏まえ、本町の将来目標人口を次のように設定します。

不可避である人口減少傾向を受け止めながらも、出生数や転入数の増加に寄与する施策・事業

を推進することで人口減少を抑制し、本計画の目標年次である平成37（2025）年で21,000人、人口ビジョンの目標年次である平成72（2060）年で16,000人の人口維持を目標とします。



※将来推計人口の仮定値

- ①「国立社会保障・人口問題研究所推計人口」は、同研究所が推計した人口
- ②「国の考え方を踏まえた推計人口」は、上記①を基本に、合計特殊出生率が2040年に2.07まで上昇すると仮定して推計した人口
- ③越前町将来推計人口は、上記②で勘案された合計特殊出生率の向上に加えて、「20歳代夫婦+子ども1人」と「30歳代夫婦+子ども1人」の世帯がそれぞれ年間3組ずつ転入すると仮定して推計した人口

2. 将来目標人口の達成に向けた目標指標

具体的な数値目標を見据えた施策展開

「越前町総合戦略」では、政府が策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」における4つの基本目標を踏まえ、越前町人口ビジョンの実現と越前町総合振興計画との整合を見据えた4つの「ふるさと越前町」創生戦略を掲げ、それぞれに下記の目標指標を設定しています。

本計画においても、これらの目標指標の達成を図るべく、将来目標値として掲げるものとします。なお、目標年次が異なることから、PDCAサイクルに基づく毎年のフォローアップを行いながら、本計画の目標年次である平成37年度までの目標値を継続的に設定していくものとします。

将来目標人口達成に向けた目標指標

【1】自然や伝統を活かした産業振興による「ふるさと越前町」創生戦略

目標指標	基準値	→	目標値
町内の就業者数	7,899人 (H26年度)	→	8,000人 (H31年度)
創業支援件数	16件 (H26年度)	→	21件 (H31年度)

【2】定住人口・交流人口の確保による「ふるさと越前町」創生戦略

目標指標	基準値	→	目標値
転出者数－転入者数	199人 (H26年)	→	100人 (H31年)

【3】子どもの出生・育成の総合的施策展開による「ふるさと越前町」創生戦略

目標指標	基準値	→	目標値
出生数	146人 (H26年度)	→	153人 (H31年度)
婚姻数	333件 (H26年度)	→	340件 (H31年度)

【4】安全・安心な生活環境の充実による「ふるさと越前町」創生戦略

目標指標	基準値	→	目標値
社会基盤関連施策*に対する町民の満足割合	42.9% (H27年度)	→	50.0% (H31年度)

*社会基盤関連施策とは、“安全・安心な生活環境の充実による「ふるさと越前町」創生戦略”に該当する施策区分のことを指す。その満足割合（関連する施策区分の平均値）は町民意識調査により把握する。

第3章 越前町の将来像

第6節 土地利用構想

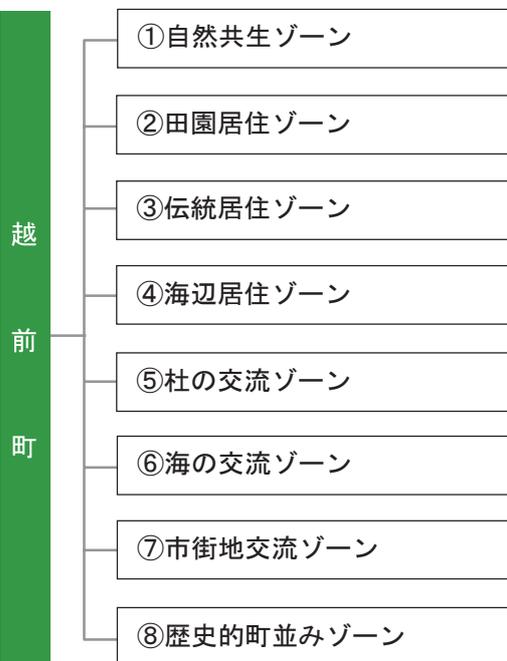
1. 土地利用の基本的な考え方

地域特性を活かした適正な土地利用の推進

本町は、県内の主要都市である福井市、鯖江市、越前市と隣接していることから、県内外からのアクセスが高く、地理的に恵まれた環境にあります。また、越前加賀海岸国定公園に指定されている越前海岸などの豊かな自然環境や古くから継承されてきた歴史・伝統文化も数多く存在しています。

このことから、各地域の特性により町を8つのゾーンに区分し、それぞれの自然的・歴史的特性を活かした土地利用を推進することで、将来的に21,000人の人々が安全・快適に住み続けられるまちづくりを実践します。

8つのゾーン区分



2. ゾーン別の土地利用の方針

①自然共生ゾーン

泰澄大師が開山した越知山をはじめ、六所山や城山などが連なる丹生山地とそれを取り巻く中山間地域は、貴重な歴史資源や良好な生活環境を形成する上で大切な役割を果たす森林資源を有しています。

この地域を「自然共生ゾーン」と位置づけ、豊かな森林資源を維持・保全しながら付加価値の高い農林業の振興を図ります。



②田園居住ゾーン

越前平野の西端に位置する田園地域は、町役場や県行政機関、高等学校が立地し、都市基盤の整備が比較的進んでいます。

この地域を「田園居住ゾーン」と位置づけ、優良農地の保全を図りながら利便性の高い居住環境を形成するとともに、人・もの・情報の交流拠点としての整備を図ります。また、主要都市に隣接している利点を活かし、企業誘致などにより雇用の拡大を図ります。



③伝統居住ゾーン

丹生盆地の中心部に位置する地域は、古くから越前焼の技法を伝承してきた地域であり、織田信長ゆかりの地として歴史・伝統文化を多く有しています。

この地域を「伝統居住ゾーン」と位置づけ、長年にわたり培われてきた歴史・伝統文化を身近に感じられる居住環境の形成を図ります。また、この地域は町の中心部に位置することから、町立織田病院を核とした保健・医療・福祉サービスや消防・防災の拠点地としての整備を図ります。



第3章 越前町の将来像

第6節 土地利用構想

④海辺居住ゾーン

越前海岸の沿岸地域は、県内一の漁業基地であり、風光明媚な海岸線や越前がに、越前水仙などの観光資源を有する全国有数の観光地となっています。

この地域を「海辺居住ゾーン」と位置づけ、水産業や観光産業との調和を図りつつ、安全で住みやすい居住環境の形成を目指します。また、ゾーンの大半が国定公園に指定されていることから、自然環境に配慮しつつ、沿岸域の限られた土地の有効利用を図ります。



⑤杜の交流ゾーン

自然共生ゾーンの中には、越知山や泰澄の杜、悠久ロマンの杜といった観光・レクリエーション施設が整備されています。

これらが立地する区域を「杜の交流ゾーン」と位置づけ、中山間地域における交流人口の増加を図るため、既存施設を活用したエコツーリズムやグリーンツーリズムの拠点地としての整備を図ります。



⑥海の交流ゾーン

多くの観光客で賑わう越前海岸沿岸地域には、海水浴場に加え、温泉保養施設や道の駅「越前」、越前岬水仙ランド、越前がにミュージアムなどの観光・レクリエーション施設が多くあります。

これらが立地する区域を「海の交流ゾーン」と位置づけ、海の恵みを活かしたさらなる魅力の向上や、市街地、中山間地域との連携を強化し、観光産業の拠点地としての整備を図ります。



⑦市街地交流ゾーン

朝日・宮崎・織田地区の市街地周辺には、福井総合植物園プラントピアや古墳公園、越前陶芸村、オタイコ・ヒルズといった観光・レクリエーション施設があります。また、各地区には地域交流の拠点となるコミュニティセンターが存在します。

これらが立地する区域を「市街地交流ゾーン」と位置づけ、市街地における交流人口の増加を図るため、商業施設との連携や歴史的町並みゾーンとの調和を図りながら、人が集い、文化の香りがする拠点地としての整備を図ります。



⑧歴史的町並みゾーン

市街地内には、歴史・伝統文化を今に伝える江波地区の切妻屋根・白壁づくり（白漆喰）の町並みや織田地区の劔神社を中心とする町並みがあります。

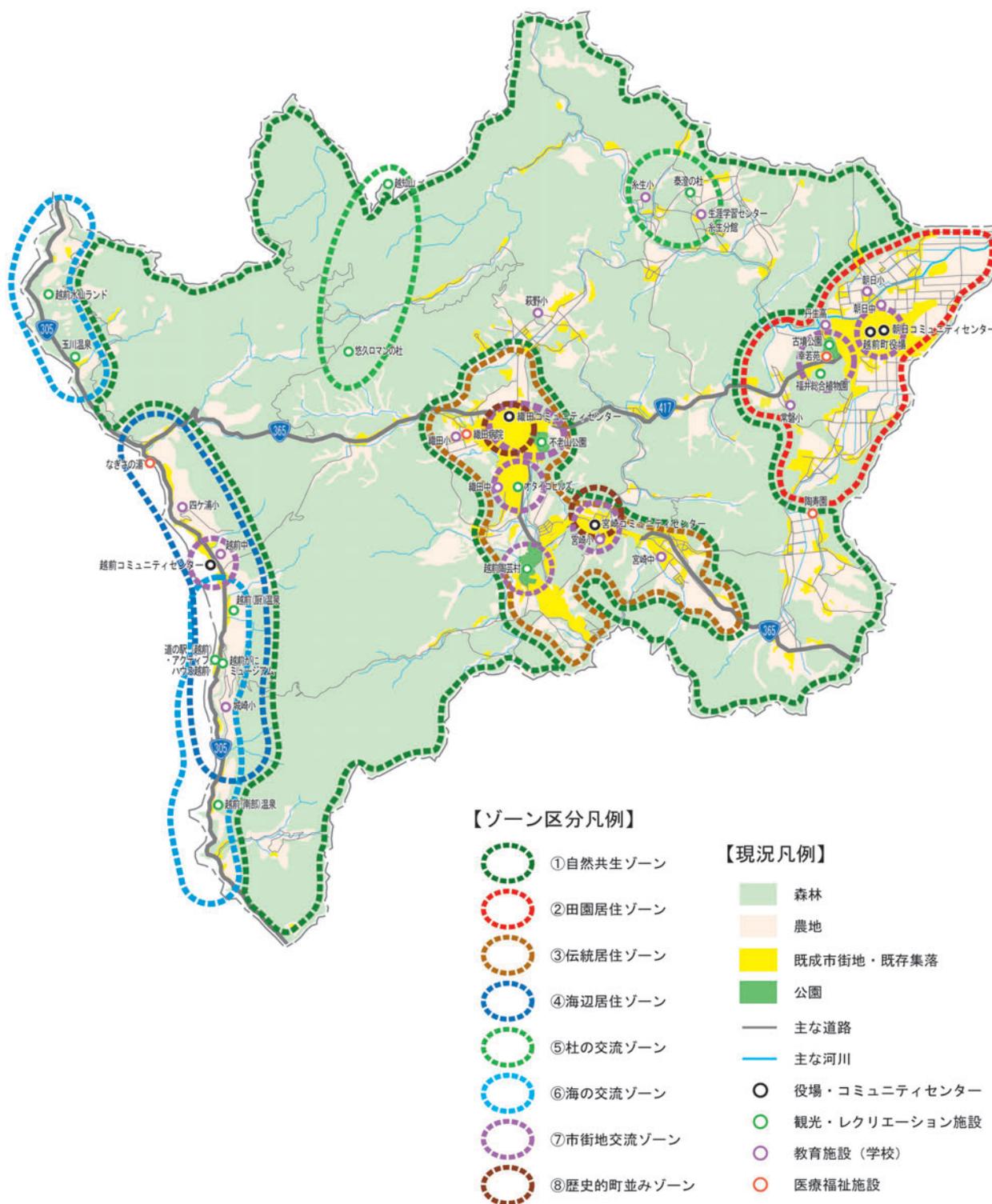
これらを中心とする区域を「歴史的町並みゾーン」として位置づけ、歴史的町並みの保全・継承を図ります。また、周辺の里山、田園、河川を含め一体的に景観を保全し、歴史・伝統文化の拠点地としての整備を図ります。



第3章 越前町の将来像

第6節 土地利用構想

土地利用構想図



【ゾーン区分凡例】

- ① 自然共生ゾーン
- ② 田園居住ゾーン
- ③ 伝統居住ゾーン
- ④ 海辺居住ゾーン
- ⑤ 杜の交流ゾーン
- ⑥ 海の交流ゾーン
- ⑦ 市街地交流ゾーン
- ⑧ 歴史的町並みゾーン

【現況凡例】

- 森林
- 農地
- 既成市街地・既存集落
- 公園
- 主な道路
- 主な河川
- 役場・コミュニティセンター
- 観光・レクリエーション施設
- 教育施設(学校)
- 医療福祉施設

第4章 まちづくりの大綱

第1節 施策推進の基本姿勢

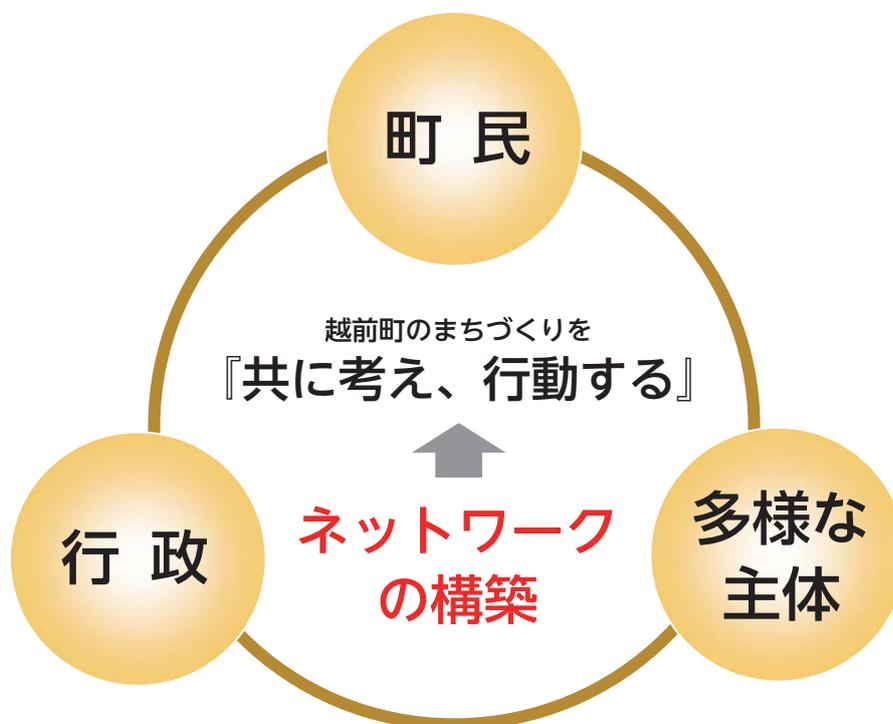
ネットワークの構築による協働・連携へ

本格的な人口減少や超高齢社会の到来など、大きな社会経済環境の変化に直面している今日、行政主導・行政依存によるまちづくりは限界を迎えつつあります。平成27年6月30日に閣議決定された「まち・ひと・しごと創生基本方針2015」においては、「小さな拠点」の形成（集落生活圏の維持）の重要性が指摘されており、“集落生活圏単位で地域住民が主体的に参画し、地域の将来ビジョンを盛り込んだ「地域デザイン」（今後もその集落で暮らすために必要な、自ら動くための見取り図）を策定し、事業に着手することが求められる”とされています。

こうした中、地域固有の産業の振興をはじめ、農山漁村に息づく伝統文化の活用や地域コミュニティの強化など、活力と潤いのある住みやすいまちづくりを推進するためには、町民の参画と協働が不可欠です。

このため、今後のまちづくりにおいては、町民同士、町民と行政あるいは産・学・金・労・言をはじめとする多様な主体が協働・連携することでネットワークを構築し、『共に考え、行動する』ことにより、将来像の実現を目指します。

町民、行政、関係者相互の綿密なコミュニケーションを通じて、各々が果たすべき役割を認識し、地域のニーズに即した効率的・効果的施策を実践することにより、協働・連携によるまちづくりを展開します。



第4章 まちづくりの大綱

第2節 施策の大綱

施策推進の基本姿勢を踏まえ、将来像の実現に向けて次のような施策の展開を目指します。

1. 快適で安全に住み続けられるまちづくり

1-1. 住みやすいまちを演出する都市基盤・公共施設の充実

○便利で快適な町の形成を目指し、町全体の土地利用方針を踏まえながら、道路・公園・宅地・上下水道・情報通信・公共交通といった生活基盤の充実を図ります。また、今後の人口減少に伴ってさらに進行するであろう空き家問題に対し、総合的な空き家対策を推進します。

1-2. 暮らしの安全確保

○安全に安心して住み続けられる環境づくりを目指し、近年増加傾向にある自然災害への対応や大規模災害への備え、犯罪の未然防止、交通安全の確保に向けた対策を推進し、地域住民と行政の協働による地域力の強化を図ります。

2. 誰もが健康で暮らしやすさを実感できるまちづくり

2-1. 安心して住み続けられる保健・医療と福祉の充実

○誰もが生涯にわたって健康に暮らし続けられる町を目指し、町民の健康づくりや保健・医療環境の向上、超高齢社会を見据えた高齢者福祉の充実、人口減少対策の要となる子育て支援の強化、地域の支え合いを軸とした障がい者福祉の充実、社会保障制度の健全運営と周知・啓発を図ります。

2-2. 安心して結婚・移住・定住できる環境づくり

○若い世代が安心して結婚・移住・定住できる町を目指し、出会い・結婚・出産に対する切れ目のない支援を図るとともに、U・I・Jターン者の受け入れ体制の強化や積極的な誘致活動の展開による移住・定住を促進し、将来的な人口の確保と地域活力の維持・向上に努めます。

3. 人が輝き豊かな心が満ちあふれるまちづくり

3-1. 町民主体のまちづくりの推進

○町民がイキイキと活躍できる町を目指し、町民・行政・多様な主体のネットワークの構築を図りながら、協働によるまちづくり活動の推進や地域コミュニティ活動の活性化を支援するなど、町民主体のまちづくりを推進します。また、男女共同参画の取組を展開し、男女ともに活躍できる地域社会の実現を図ります。

3-2. 次世代を担う人材育成

○町の発展を支える心豊かな人材の輩出を目指し、家庭・地域・学校・行政が一丸となって、教育環境の充実や生涯スポーツ・競技スポーツの振興を図ります。また、国際交流活動を推進し、グローバルに活躍できる人材の育成を図ります。

4. 人と仕事の活力みなぎるまちづくり

4-1. 地域資源と共生する産業の振興

○豊かな自然などの地域資源を活かした産業活力のある町を目指し、農林水産業の担い手の育成や農業生産基盤の整備、森林資源や水産資源の確保、6次産業化やブランド化の支援、商店街の振興や異業種間交流の推進、越前焼を活かした伝統産業の振興などを図ります。

4-2. 雇用環境の充実

○安定した仕事を持ち豊かな生活を送ることができる町を目指し、創業支援や産学官連携の推進による新規産業の育成、地域産業の活性化や企業誘致などによる雇用の創出、老若男女が安心して働ける就労環境の向上を図ります。

5. ふるさとの個性を活かし交流を育むまちづくり

5-1. 観光地としての新たな魅力向上

○海・山・里の観光資源を活かした交流が盛んな町を目指し、福井総合植物園プラントピア、越前陶芸村、道の駅「越前」、織田劔神社周辺などの交流拠点施設の再整備をはじめとする観光資源の魅力向上や、観光客・団体客の受け入れ体制の強化、「越前ブランド」のさらなる展開と多方面へのPRを図ります。

5-2. まちの魅力となる地域資源の保存と継承

○連綿と受け継がれてきた自然・歴史・文化が息づく町を目指し、環境基本計画などに基づく自然環境の保全や5R運動の推進などによる循環型社会の形成、織田文化歴史館を核とした文化財の保護・継承を図ります。

6. 持続可能な健全行財政のまちづくり

6-1. 自主自立型の行財政基盤の確立

○町民の信頼に応える健全行財政の町を目指し、多様化する町民ニーズに応じた行政サービスの向上や組織のスリム化及び総合力の強化、町政情報のオープンデータ化などによる情報公開の推進、自主財源の確保と財政運営の効率化による財政の健全運営、近隣市町との連携による広域行政・広域交流の推進を図ります。

第4章 まちづくりの大綱

第3節 施策の体系

施策の大綱に基づく47の施策区分を設定し、各種施策・事業を展開します。

1. 快適で安全に住み続けられるまちづくり

1-1. 住みやすいまちを演出する都市基盤・公共施設の充実

- 1-1-1. 道路網の整備
- 1-1-2. 憩いの場の整備
- 1-1-3. 水道の整備
- 1-1-4. 下水道等の整備
- 1-1-5. 情報通信基盤の整備
- 1-1-6. 適正な土地利用の推進
- 1-1-7. 宅地・住宅の整備
- 1-1-8. 総合的な空き家対策の推進
- 1-1-9. 公共交通の充実

1-2. 暮らしの安全確保

- 1-2-1. 災害の予防
- 1-2-2. 防災・救急体制の充実
- 1-2-3. 防犯対策の強化
- 1-2-4. 交通安全対策の充実

2. 誰もが健康で暮らしやすさを実感できるまちづくり

2-1. 安心して住み続けられる保健・医療と福祉の充実

- 2-1-1. 健康づくりの推進
- 2-1-2. 保健事業の推進
- 2-1-3. 医療環境の充実
- 2-1-4. 子育て支援の充実
- 2-1-5. 高齢者福祉の充実
- 2-1-6. 障がい者福祉の充実
- 2-1-7. 安定した社会保障制度の確立

2-2. 安心して結婚・移住・定住できる環境づくり

- 2-2-1. 出会い・結婚・出産への支援
- 2-2-2. U・I・Jターン受け入れ環境の整備
- 2-2-3. 移住者の誘致促進

3. 人が輝き豊かな心が満ちあふれるまちづくり

3-1. 町民主体のまちづくりの推進

- 3-1-1. 町民と協働できるまちづくりの推進
- 3-1-2. 地域コミュニティの育成
- 3-1-3. 男女共同参画社会の推進

3-2. 次世代を担う人材育成

- 3-2-1. 生涯学習体制の充実
- 3-2-2. 生涯スポーツの振興
- 3-2-3. 学校教育環境の充実
- 3-2-4. 地域に根ざした教育の推進
- 3-2-5. 国際交流の推進

4. 人と仕事の活力みなぎるまちづくり

4-1. 地域資源と共生する産業の振興

- 4-1-1. 農業の振興
- 4-1-2. 林業の振興
- 4-1-3. 水産業の振興
- 4-1-4. 商工業の振興
- 4-1-5. 伝統産業の振興

4-2. 雇用環境の充実

- 4-2-1. 新規産業の育成
- 4-2-2. 雇用機会創出と就労環境整備

5. ふるさとの個性を活かし交流を育むまちづくり

5-1. 観光地としての新たな魅力向上

- 5-1-1. 観光産業の活性化
- 5-1-2. 特産品・越前ブランドの魅力向上

5-2. まちの魅力となる地域資源の保存と継承

- 5-2-1. 自然環境の保全
- 5-2-2. 循環型社会の形成
- 5-2-3. 文化財の保護・継承

6. 持続可能な健全行財政のまちづくり

6-1. 自主自立型の行財政基盤の確立

- 6-1-1. 行政サービスの向上・組織のスリム化
- 6-1-2. 情報公開の推進
- 6-1-3. 財政の健全運営
- 6-1-4. 広域行政・広域交流の推進

第5章 リーディングプロジェクト

まちづくりの課題を克服し、基本理念として設定した『町民一人ひとりが幸せを実感し、誇りをもって充実した人生を歩み続けることができる「ふるさと越前町」の創生』に基づき、将来像『人

と技 海土里織りなす 快適なまち』を実現するため、骨格となるべき施策を4つのリーディングプロジェクトとして位置づけます。

● Project 1 — 住環境・公共交通・空き家対策 —

『快適居住プロジェクト』

便利で快適な住環境を形成し、定住人口を維持・増加させていくため、道路や公園などの各種インフラ整備をはじめ、空き家の利活用による移住・定住促進、公共交通の充実、未利用地などの宅地化の促進を図ります。

- 空き家の利活用による定住人口増加
- 新たな地域公共交通の仕組みづくり
- 未利用地などを活かした宅地の供給

● Project 2 — 結婚・出産・子育て・教育対策 —

『人財育成プロジェクト』

結婚・出産・子育てに関する包括的な支援を行い、出生数の増加を図るとともに、次代を担う「人財（たから）」を育成していくため、家庭・地域・学校での教育・スポーツ環境の充実を図ります。

- 出会い・結婚・出産への支援
- 子育て環境や支援体制の充実
- 家庭・地域・学校の協働による教育・スポーツ環境の充実

● Project 3 — 産業・雇用対策 —

『仕事応援プロジェクト』

安定的な仕事の確保による人口の定着に向けて、地域産業や伝統産業の振興と担い手の確保・育成を図るとともに、雇用機会の創出や就労環境整備、企業誘致の推進、新規産業の育成に取り組みます。

- 地域産業の振興と担い手の育成
- 雇用機会の創出と就労環境支援
- 企業誘致の推進と新規産業の育成

● Project 4 — 交流人口対策 —

『観光交流プロジェクト』

観光産業の育成をはじめ、新たな誘客戦略や越前ブランドの魅力向上を推進するとともに、交流拠点施設（プラントピア・越前陶芸村・道の駅「越前」・織田劔神社）の再整備を推進し、交流人口の増加を図ります。

- 観光立町を目指した観光産業の育成
- 新たな誘客戦略と越前ブランドの魅力向上
- 交流拠点施設の再整備・周辺整備

※リーディングプロジェクト関連施策は、基本計画における施策・事業に「★」印で示します。

◆ 第8回越前大自然写真コンテスト グランプリ作品



「茜色に染まる越前海岸」